

駒ヶ岳～中ノ岳～丹後山縦走

縦走経路	枝折峠～駒ヶ岳～中ノ岳～丹後山～十字峡	期 日	平成 16 年 1 0 月 1 0 日(日)～1 1 日(祝)
山行人	笠原正雄単独	特 記	山をはじめた頃の憧れの縦走ルート

地 点 名	(着) ～ (発)	天候	記 事
1 日 目 (1 0 日)			
与 板	午前 4:20 発		
小 出 駅	5:30 着	快晴	車中朝食、トイレ。駅付近で無料で止められる場所を物色したが、分らず、スキー場 P に駐車。5 分程歩いて駅に戻る。
” 発 バス	6:30	”	客は俺一人。駄尾で 10 分時間調整。路線維持のため客無しと分っていても運行をしていると運転手が言っていた。少々車酔い。
枝 折 峠	7:30～7:40	”	駐車場はほぼ満車。歩き始める。
明 神 峠	8:05	”	
道 行 山 頂 下	8:53	”	頂へは行かず通過。燕からの女性単独者がスタスタと追越して行く。
小 倉 山	9:40～8:55	”	入山時間が遅かったせいか誰もいない。山頂が良く見える。サイドバッグに入れた水のバランスが悪いので、ザックのトップに移し直す。
百 草 の 池	10:40～10:50	”	荒沢岳が前岨のやせ尾根ピークまでしっかり見える。長岡からの若者二人が素通りしようとしていたので立ち寄って行くよう進言する。少し先へ登ってから振り返ると、僅かなクサ原の中にこの池が黒く光っている。
	11:13～11:25	”	展望良い岩場道に腰をおろす。前記二人が上がって来た。地図を持たずに来たと言うので、見せてやり、分る範囲で山を教える。弥彦も見える。これから向かう中ノ岳は小屋まで、明日の兎岳も綺麗に望める。
駒の小屋前広場	12:10～12:50	”	ウイスキー少々、五目おこわ、ポタージュスープ。昼寝人も居る。下山準備をしている燕単独女性を見かけたので声を掛けると、人懐っこい顔をして話かけてきた。会津駒等の山の話をした。そして下山して行った。
駒ヶ岳山頂発	1:15	”	一夫婦のみ。写真を撮ってもらう。今日は八ツ峰もバッチリ見える。
クシガハナ分岐	1:27	”	道は良く刈り払われている。
諏 訪 平	1:34	”	富士重工群馬工場正月登山の滑落遭難碑。金属板の彫りが浅く読み難い。
	2:00～2:05	”	鞍部で休む。この辺りで後方に見える北沢の突き上げのスラブが圧巻だ。
天 狗 平	2:11	”	標柱に中ノ岳 4.0km と書かれている。
檜 廊 下 直 前	2:40～2:45	”	この休憩の後すぐに檜廊下はじまる。木の根にケツをつけて降りたり、根を手繰り寄せての上がり楽しい。
檜 廊 下	3:12～3:20	”	廊下の終盤で休む。
檜 廊 下 通 過	3:28～3:38	曇	廊下を終り笹の道の急登、小屋がグンと近くに見える。最後の大下りの登り返しか？、手前のピークで休む。荒沢岳が鋭い。
	4:23～4:33	”	ピークで休む。陽も陰り始め、西の雲か赤みを帯びて来た。歩きはじめる。顔にあたる大気がヒンヤリしてきて、額の汗に混じって鼻水も垂れて来る。記録手帳に『もうちょっとガンバレ』と書いて自らを奮い立たせた。
中ノ岳避難小屋	5:15 着	ガス	小屋が到着数分前には、はっきり見えていたが、まさに直前にはガスが姿を隠した。小屋の回りを一周してから入室。総勢 20 人位か、皆夕食の真っ最中でおいと共に喧騒だ。2 階の好位置に陣取り、小屋脇のタンクの天水を汲みに降りる。既に寝袋に包まっている者もいる。6 時過ぎには全体が静かになり、一人物音をたてぬように酒とメシとした。結局駒ヶ岳～中ノ岳小屋間は時間も遅かったせいか俺一人の旅だった。
就 寝	7:20		夜半に台風かと思われる程の強風。やはり山の天気は怖い。
2 日 目 (1 1 日)			
起 床	4:30		うどん。押しつぶされてアルミホイル鍋が水漏れ。チタン鍋で煮た。
中ノ岳避難小屋	5:55 発	曇	見附からの 40 才位の男が一人外にいた。写真を撮ってもらう。駒ノ湯から入山して同じ道に戻ると言うので、それならば荒沢岳の道が刈られたとの情報もあるのでそちらを回ったらどうかと奨めた。
中ノ岳山頂		”	山頂には誰も居なかった。方位盤で山の位置を確かめたかったが雲が懸かっている残念。雪があったせいか前回とは様子が違うと思った。

池ノ段	6:13	〃	山頂から下って笹の道の分岐点。標柱、右が日向山方面
鞍部	6:50	〃	この後数度登降を繰返すが、駒～中ノ岳間ほど厳しくない。しかし、笹の道は斜面で歩きにくい。下りで笹と湿気道のせいで2回シリモチ。
休憩	7:05～10	薄曇	小ピークで。小屋歩き出し直後から今日のコースが丹後小屋迄見渡せる。
小兎岳	7:42	〃	こんもりピークの左腹に標柱が傾いている。
兎岳	8:10～25	〃	この少し手前に荒沢岳への分岐標識、出だしは笹だがルートは望める。東京3人女に追いつくが、先行して行った。中ノ岳の肩越しに八ツ峰、駒ヶ岳、荒沢岳鋭鋒の左奥の雲上に未丈ヶ岳の2等辺三角形が素晴らしい。ずっと山を眺めていたが、後ろから同年代の男女3人隊が来た所で出発。
大水上山	9:00	〃	標柱あり。この前後で中高年男女6人隊及び4人隊と行き交う。
水上水源碑	9:10	〃	群馬県知事清水某の記名。
道標	9:20	〃	手前からこの笹がはげた微小広場が目立つ。
丹後山避難小屋	9:30～10:00	〃	この直前に山頂。出発しようとしていた東京3人女を呼び止めて写真を撮ってもらおう。小屋はとても綺麗だ。天水タンクが有って飲むとうまい。小屋に入ってお粥を湯せんして食べる。屋根裏に刈払機が2台。備え付けの帳面に荒沢コースの刈払いの記入があった。見附男が追いついて小屋に入って来た。双眼鏡で見たが、所々覆われていたので荒沢岳を諦めてこちらにまわったと言う。
ジャコの平?	10:50～10:55	晴	急降下の連続だ。笹の道から岩混じりの道へ、陽は陰っているものの左右に見える斜面の紅葉がきれい。灌木帯に入れば木々紅葉のトンネル、道は広く良く整備されている。位置は不確か、休憩。半袖歩行へ。
4合目	11:14	〃	4合目石柱にh1260の標示、ジャコの峰だろうか。
3合目h1040	11:35～11:40	〃	松の大木の根に腰を降ろす。この後親子連れが上山して来た。
カモエダズンネ	11:45	〃	見晴らしの良い岩交じりの尾根道。沢筋のガレが良く見える。
休憩	12:00～12:05	〃	平坦路で休む。
鉄砲平	12:30	〃	1合目と鉄砲平の標柱。急降下坂で地元らしき同年代の山男が荒沢の刈払いか、ザックに剪定はさみを着けて長靴で驚異的な速さで追越していく。
登山口	12:50	薄曇	届けポストあり。急降下から開放されて充実感に満ちた。三国川に沿って砂利道の林道。すぐに左折で栃ノ木橋。途中左の沢から落ちる水で顔・腕を洗う。およそ30分の林道歩きも達成感で足取りも軽やか。散策客と会う。溪谷の川水が緑色帯びてきれいだ。虹の滝あり。
トンネル出口の橋	1:30着	〃	テントで地元の男が2～3人。コケ売りや、汁を温めている。見附男が俺を迎えてくれた。小出までどうやって行くのかと尋ねてきた。一緒に十字峡センターまで行くと、運良くタクシー乗車の群馬夫婦がいた。相乗りを申し出てOK。六日町駅まで4人割勘で一人約1300円。野中バス停まで歩くつもりだったので、この相乗りはラッキーだった。
六日町駅～小出～駒ノ湯～帰路	六日町駅2:40	〃	3:45発JRで小出駅へ。車を回収して、見附男を駒ノ湯迄送ってやる。道中で山の話をして楽しいひとときであった。駒ノ湯の駐車場には数台あって、下山後の着替えをしている者もいた。
与板	6:20		栃尾又で2軒とも入浴のみは断られた。大湯ユピオで入浴。風呂は20人近い人数。半数ほどが山帰りだ。山ゴボウ漬物を買う。

台風22号が関東地方に大きな被害を与えた翌日の入山である。

1日目は快晴が味方をしてくれた。先々月に見えなかった分が今回は全部良く見えた。駒ヶ岳から檜廊下までは快調に脚が進んだが、その後小屋までの登り返しが少し気もせいたし手間取った。予測していたより30分以上遅い到着となってしまった。やはり4時には小屋に着ければベストなのだが、バスの時刻で歩き始めが7:40ではしょうがない。

2日目のコースで同トレールは2隊6人と単独3人、行き交う者2隊十数人のみで静かな山旅だった。数度登り返しがあるが、道が全部見通せるせいか初日より辛くはない。また、丹後の下山道は急降下が続くが、道も広く良く整備されていて、合目石柱も有り目安になって助かる。

山をはじめた頃、地図を開いては、行ってみたいが行けるだろうかと思い描いていた山城だ。両日とも天候に恵まれ、無事踏破出来て大満足である。

荷重は15.2kg。帰宅直後の体重計測では出発前との差は3kg。但しメシ後半分近く戻る。